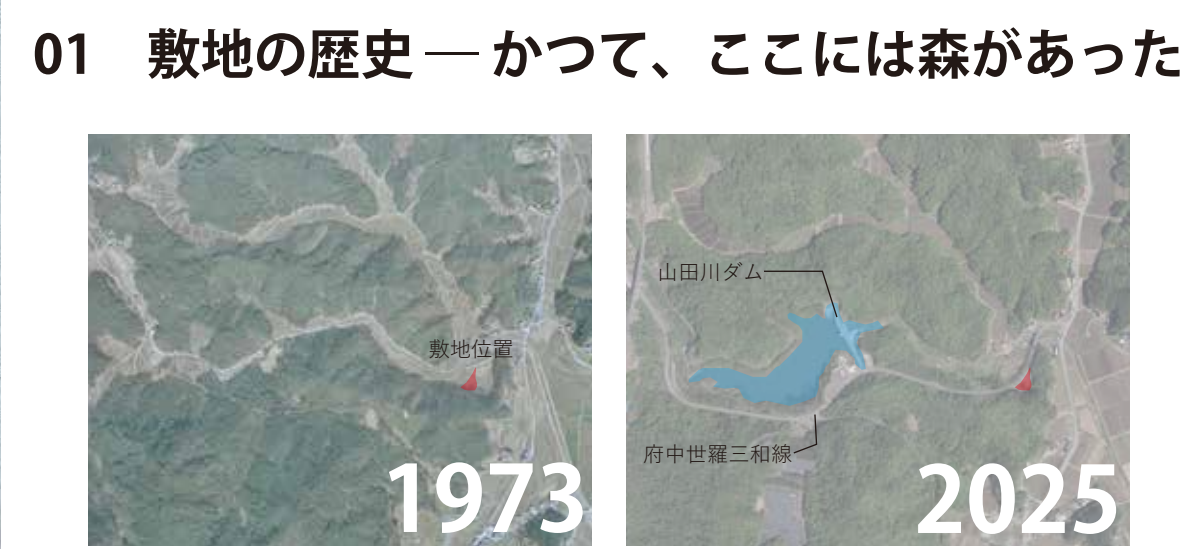
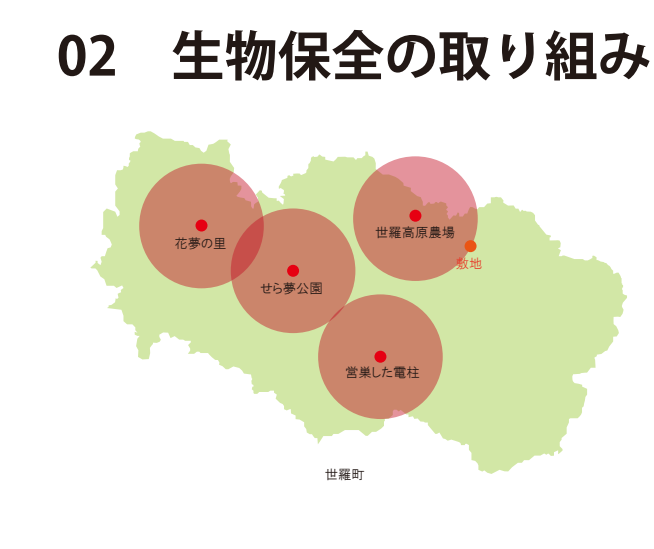
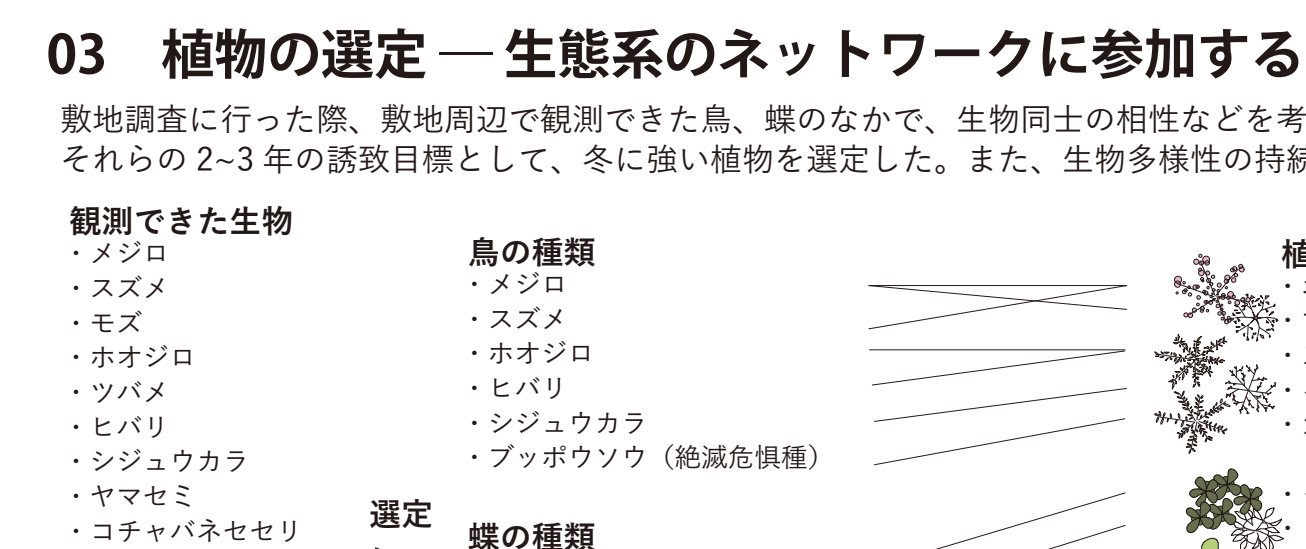




1973年、敷地のある範囲は元々森であった。そこにはさまざまな生物の居場所があっただろう。そして、府中世羅三和線開通、山田川ダム建設にともなう人造湖建設を通して、その畑はなくなり、この敷地が完成した。そしてまた、人間のためのスノーステーションをこの地に建てようとしている。人間の生活のために必要な建築であるが、ほかの生物のことも含めて考えることはできないだろうか。

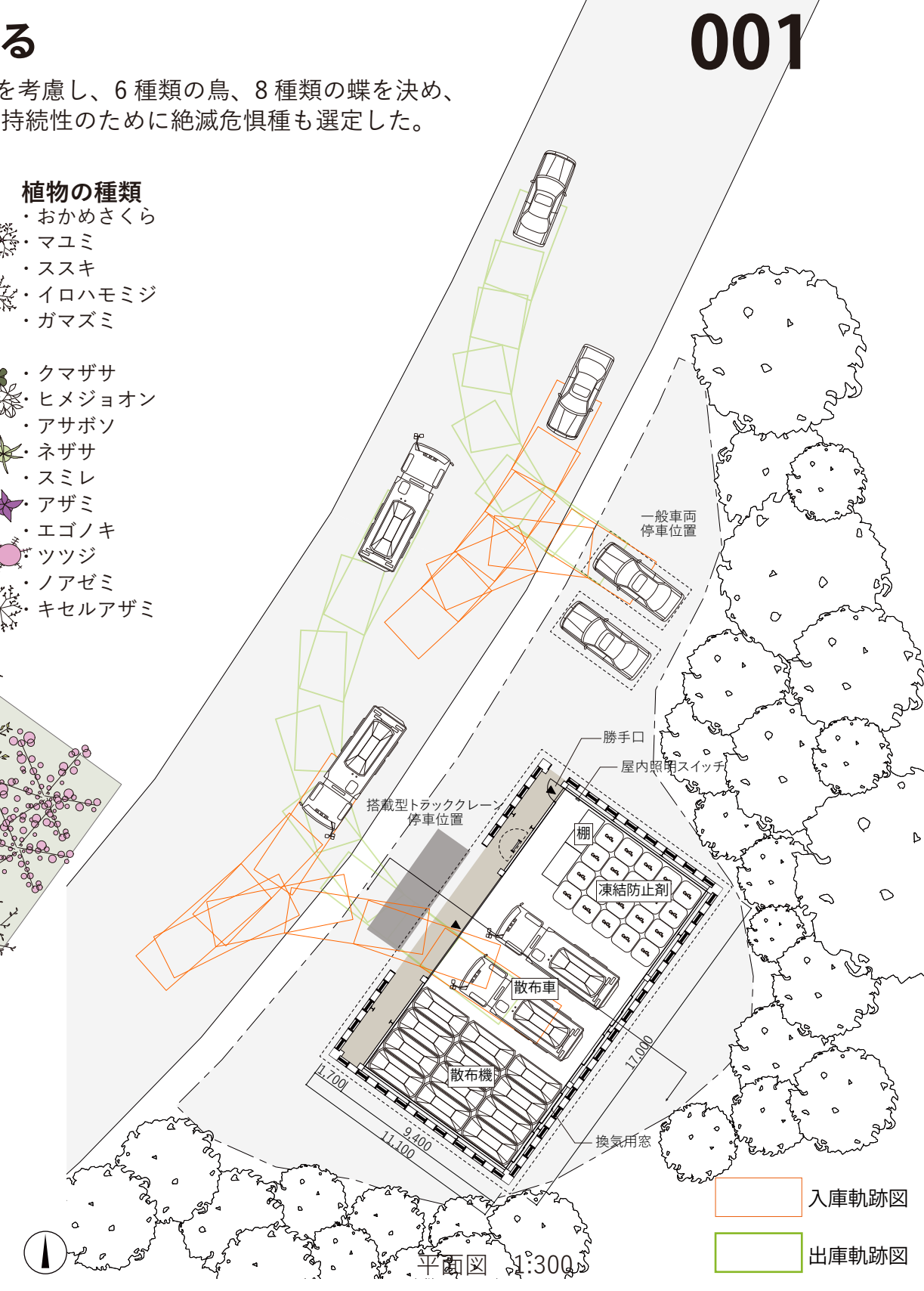
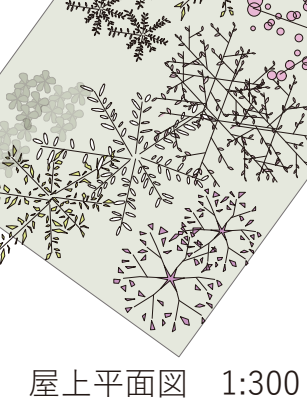
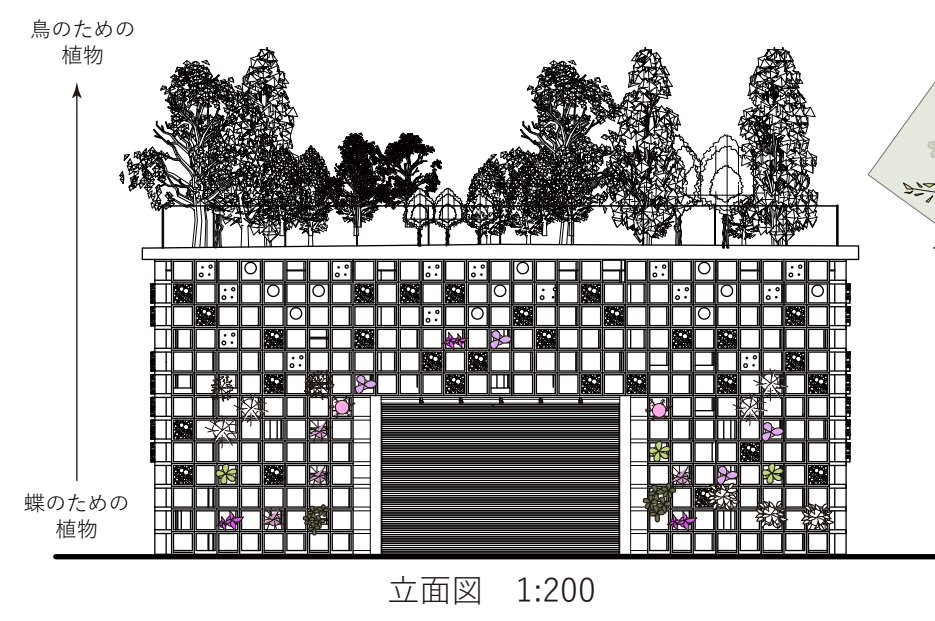


貴重で、多様な生物が世羅町では観測できる。絶滅危惧種であるヒョウモンモドキ、コウノトリなどの居場所を積極的につくるなど、世羅町では生物を保全するためのさまざまな取り組みを行っている。世羅町の人々にとって生物の場所を考えることは、関心の高いことであると考えます。



04 植栽計画

選定した植栽は、4方向の壁面、また屋上に配置する。飛行高さに応じて、上に向かって、蝶のための植物、鳥のための植物を配置する。



05 アイソメトリック — 容易な維持管理と構造計画

雨水の利用

屋根面の手摺の部分から、雨水・雪解け水を取り込み、鎖樋を通して、GLまで流す。

巣に植えられた植物には、水あげをする必要はなく、雨水・雪解け水を利用することで維持管理を容易としている。

管理

4種類の巣



建物の外側には、植物、蝶、鳥のための居場所を設ける。4種類の巣を用意し、ランダムに配置する。

地球環境

構造計画

内部の大スパンに対応するため、外殻構造を採用する。

鉄構造で格子壁をつくり、市松模様状にCLT耐震パネルを設けることで、耐震化をはかる。

脱炭素化

